

◎注意事項をよくお読み下さい

りそな マーケットフラッシュマンスリー (2026年4月号)

りそなホールディングス 市場企画部
りそな銀行 国際事業部

◆ 今月の相場見通し

※各マーケットコメントは3月31日(火)9:00現在
※休日の実績は前営業日

		3月30日現在	4月の予想 (月末値)	
USD	ドル・円 (円)	159.71	151.0 ~ 163.0	158.0
	イラン情勢悪化の長期化懸念高まれば円は売られやすい展開			
EUR	ユーロ・ドル (ドル)	1.147	1.14 ~ 1.20	1.17
	ユーロ・円 (円)	183.10	177.0 ~ 188.0	184.9
	エネルギー高を受けたECBの利上げ観測がユーロを下支え			
GBP	ポンド・ドル (ドル)	1.319	1.30 ~ 1.35	1.33
	ポンド・円 (円)	210.60	207.0 ~ 214.0	210.1
英中銀は政策金利高止まりも景気減速が重石。対ドルでレンジ推移の一方対円は伸び悩み				
AUD NZD	豪ドル・円 (円)	109.44	107.0 ~ 111.5	108.0
	NZドル・円 (円)	91.37	90.0 ~ 93.0	91.0
豪中銀タカ派維持もリスクオフで豪ドル上値抑制、NZドルは軟調継続				
株式 相場	日経平均 (円)	51,886	50,000 ~ 60,000	54,000
	中東情勢の悪化が重荷となり横ばい圏で推移しよう			
	NYダウ (ドル)	45,216	44,000 ~ 49,000	47,000
中東情勢の悪化が重荷となり横ばい圏で推移しよう				
長期 金利	日本 (%)	2.374	2.20 ~ 2.60	2.40
	イラン情勢と日銀の利上げ観測に振らされるが、長期金利は高止まりしやすい			
	米国 (%)	4.348	3.80 ~ 4.60	4.40
中東情勢の悪化に伴うFRBの利下げ期待後退が金利を高止まりさせるとみる				

◆ 今月の注目ポイント

中東情勢と日米金融政策が織りなす市場の不確実性

テーマ	注目度	今月の注目ポイント
地政学 リスク	◎	【イラン情勢の行方】トランプ米大統領は4-5週間での決着を志向しており、4/6までの停戦期限延長の行方が最大の焦点。ただ関税交渉のようなビジネスライクな妥結は期待しづらく、イスラエルは強硬姿勢を維持し、イランも徹底抗戦の構え。米国がこれまで否定的だった地上戦に踏み込む可能性も浮上しており、事態は一段と不確実性を高めている。原油価格の上振れとリスク資産の不安定化を通じ、市場のボラティリティ上昇要因となろう。
	○	【日銀会合(28日)/FOMC(29日)]日銀はインフレと円安への警戒を背景に、4月利上げに向けた地ならしを進めている。日銀短観や支店長会議、春闘の動向を踏まえ、実施時期を見極める局面。一方、FRBは中東情勢の混迷に伴う原油高を受け、インフレ警戒から早期利下げ観測が後退し、政策金利の高止まりが意識されている。金利の高止まりがリスク資産には重石となりやすい。

◆ アジア通貨見通し

	3月30日現在	4月の予想 (月末値)	
人民元・円	23.09	22.00 ~ 23.00	22.50
バーツ・円	4.870	4.75 ~ 4.95	4.80
ルピア・円	0.940	0.90 ~ 0.96	0.92

◆ 今月の重要日程

1日(水) 日 3月調査日銀短観	16日(木) 中 1-3月GDP
3日(金) 米 3月雇用統計	24日(金) 日 3月全国CPI
6日(月) 日 日銀支店長会議	28日(火) 日 日銀金融政策決定会合
10日(金) 米 3月CPI	29日(水) 米 FOMC
14日(火) - IMF世界経済見通し公表	30日(木) 欧 ECB理事会
15日(水) 米 地区連銀報告	30日(木) 米 1-3月GDP (速報)

◎注意事項

当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

◎注意事項をよくお読み下さい

2026/3/31

りそな マーケットフラッシュマンスリー (2026年4月号)

りそなホールディングス 市場企画部
りそな銀行 国際事業部

◆ 今月の相場見通し① 為替 (ドル・ユーロ)

ドル 円



出所：Bloomberg

米ドル円

151.00 – 163.00円

イラン情勢悪化の長期化懸念高まれば円は売られやすい展開

3月のドル円は、150円台半ばで始まったのち、次第に円安が進行し、月末にかけては160円台に乗せる場面も見られた。月前半は、中東情勢の緊迫化を背景とする原油高や安全資産としてのドル買いが意識されたことに加え、FRBが利下げを急がない姿勢を維持した一方、日銀も追加利上げを見送ったことで、日米金融政策の方向感の違いが改めて意識され、円売りドル買いが優勢となった。もともと、円安進行に対しては当局のけん制が強まり、月末にかけては介入警戒感が相場の上値を抑える展開となった。

4月のドル円は、引き続き150円台後半を中心とする値動きを想定する。足元では、イラン情勢の長期化懸念を背景に原油高への警戒が残っており、日本にとっては交易条件の悪化を通じて円売り圧力につながりやすい。一方で、円安が加速する局面では、当局が為替動向を強くけん制しており、上値では為替介入警戒感が意識されやすい。このため、地政学リスクを睨みつつも、160円を大きく超過するような上昇余地は限られ、150円台後半を中心とした推移となる。

ユ ー ロ



出所：Bloomberg

ユーロドル

1.14 – 1.20ドル

ユーロ円

177.00 – 188.00 円

エネルギー高を受けたECBの利上げ観測がユーロを下支え

3月のユーロは、対ドルでは軟調となった一方、対円では180円台前半を中心に推移し、方向感に欠ける展開となった。月前半は、中東情勢の緊迫化に伴う原油高を受けてユーロ圏景気への懸念が意識され、安全資産としてのドル買いも相まって対ドルでユーロ売りが優勢となった。もともと、対円では円安であると同時にユーロ自体も対ドルで弱含んだため、ユーロ円は一方に振れにくかった。

4月のユーロは、対ドルでは上値の重い推移、対円では底堅い推移を想定する。イラン情勢の長期化懸念が残るなか、原油高が続けばユーロ圏景気の重しとなりやすく、同時に安全資産としてのドル選好も入りやすいだろう。一方、ECBもエネルギー高に伴うインフレリスクを注視しており、ユーロの下値も限られよう。対円については、ドル円に連動した値動きを想定しており、原油高は円売り材料となりやすい一方、円安が加速する局面では当局のけん制や為替介入警戒感が上値を抑えるとみる。

◎注意事項

当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

◎注意事項をよくお読み下さい

2026/3/31

りそな マーケットフラッシュマンスリー (2026年4月号)

りそなホールディングス 市場企画部
りそな銀行 国際事業部

◆ 今月の相場見通し② 為替 (ポンド・豪ドル・NZドル)

ポンド



出所：Bloomberg

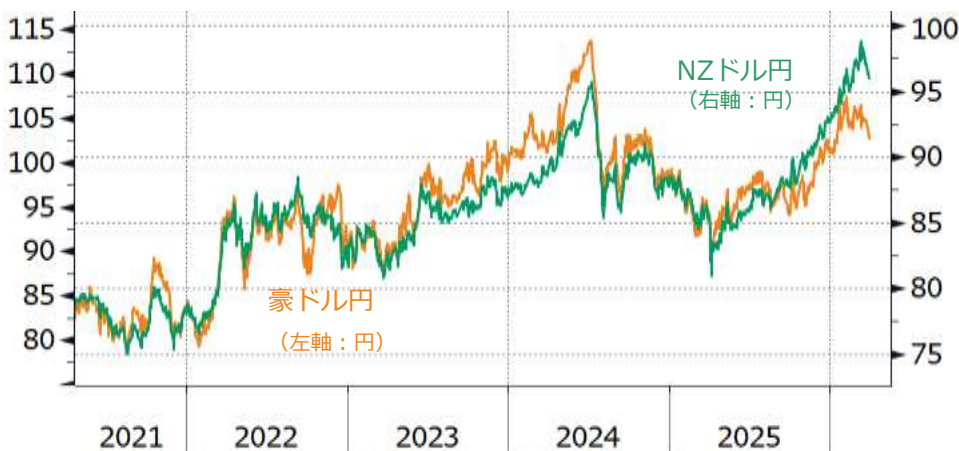
ポンドドル	1.30 – 1.35ドル
ポンド円	207 – 214円

英中銀は政策金利高止まりも景気減速が重石。対ドルでレンジ推移の一方対円は伸び悩み

3月の英ポンド相場は、対ドルでは上値の重い展開となる一方、対円では底堅く推移した。英国では景気指標の弱さが引き続き意識され、消費や雇用の鈍化が確認される中、ポンドは対ドルで軟調に推移。一方でドル円が160円近辺まで上昇するなど円安が進行したことで、対円での下値は底堅く推移した。また英中銀は3月会合で政策金利を据え置いたが、据え置き7票、利下げ2票となり、利下げ提案が事前予想より少なかったこともポンドの下支えとなった。

4月の英ポンド相場は、対ドルでのレンジ推移を想定しつつ、対円では伸び悩む展開を予想する。英中銀はインフレ高止まりを受けて、年内の金融政策見通しは先月末の2.1回の利下げから、2.7回の利上げ見通しに転じている。一方で景気減速懸念は根強く、英ポンドの上値余地も限定的であろう。FRBも利下げに慎重な姿勢を維持する中、対ドルではレンジ推移が見込まれる。対円では総じて伸び悩む展開を想定する。ドル円が一段と上昇する場面では、為替介入警戒感が高まりやすく、ポンド円の上値は抑えられやすいであろう。

豪ドル・NZドル



出所：Bloomberg

豪ドル円	107.00 – 111.50円
NZドル円	90.00 – 93.00円

豪中銀タカ派維持もリスクオフで豪ドル上値抑制、NZドルは軟調継続

3月は豪ドル、NZドルともに対ドルで軟調に推移し、対円では月末にかけて弱さが目立つ展開となった。豪ドルは豪中銀の利上げがあったものの僅差であり、中東情勢緊迫化や株価調整を背景としたリスクオフの流れから上値は抑制された。NZドルも豪ドルに連動しつつ、NZ中銀の慎重姿勢が意識され、対ドル・対円ともに弱含みで推移した。特に対ドルでは資源国通貨全般に売り圧力がかかり、下落基調が鮮明となった。

4月のオセアニア通貨は引き続き中銀スタンスと外部環境の影響を受けやすい展開を想定する。豪中銀はインフレ高止まりを背景にタカ派姿勢を維持し、豪ドルの下支えとなるが、世界的なリスクオフや中国景気不安が重石となり上値は限定的となる見通し。一方NZ中銀は緩和的スタンスを維持する可能性が高く、NZドルは対ドルで上値の重い展開が続こう。対円では円売りが一定の支えとなるものの、円への介入警戒感もあり、両通貨とも戻りは限定的となる公算が大きい。

◎注意事項

当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

◎注意事項をよくお読み下さい

2026/3/31

りそな マーケットフラッシュマンズリー (2026年4月号)

りそなホールディングス 市場企画部
りそな銀行 国際事業部

◆ 今月の相場見通し③ 株式、長期金利

株式見通し



出所：Bloomberg

日経平均

50,000 – 60,000円

中東情勢の悪化が重荷となり横ばい圏で推移しよう

米国によるイラン攻撃を契機とした中東情勢の悪化が継続しよう。また、中東情勢が改善方向へ向かったとしても、今回の戦争で重要なエネルギー関連施設が攻撃を受けており、エネルギー価格が高止まりする公算が大きいことから、センチメントの急回復を見込み難い。もっとも、大企業を中心に価格転嫁余力は大きく、中期ではファンダメンタルズにほとんど影響がないとみられることから、押し目買いの好機と捉えたい。

NYダウ

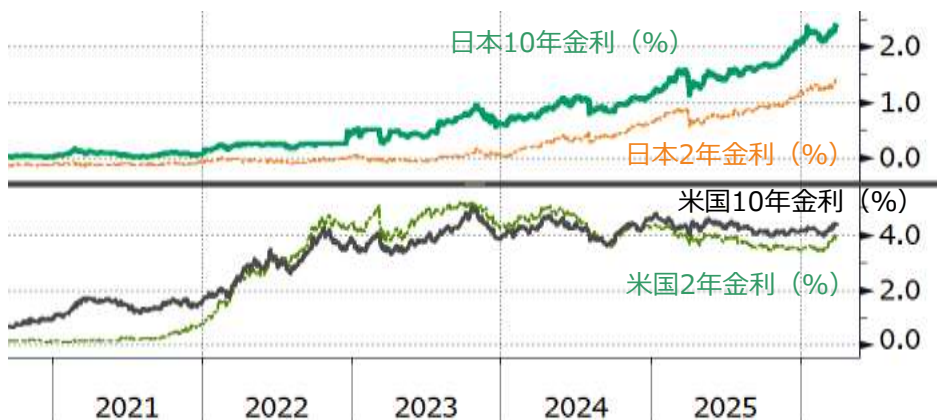
44,000 – 49,000ドル

中東情勢の悪化が重荷となり横ばい圏で推移しよう

一部の空売り投資家が、飛躍した論理によってAIバブルを警告したことを契機にセンチメントが低調となっていたところに、更に中東情勢の悪化が加わったため、ハイテク株のバリュエーションは2年ぶりの低水準である。

依然としてハイテク株は割安であるが、センチメントの改善は複数回の決算を無難に通過することが必要なため、株価は横ばい圏で推移する公算が大きい。

長期金利見通し



出所：Bloomberg

日本国債10年

2.20 – 2.60%

イラン情勢と日銀の利上げ観測に振らされるが、長期金利は高止まりしやすい

3月は原油価格高騰に伴うインフレ懸念の高まりもあり、金利の上昇基調が継続し、99年以来的の高水準に金利は上昇した。4月初は年度末のポジション調整の動きが一巡し、水準面から金利が低下する場面も予想されるが一時的であろう。イラン情勢を受けた海外金利動向や為替動向に左右される展開が見込まれる。また4月中旬の春闘の最終集計でも賃上げの強さが確認されれば、日銀の追加利上げ観測は維持されやすく、金利上昇圧力となろう。

米国債10年

3.8 – 4.6%

中東情勢の悪化に伴うFRBの利下げ期待後退が金利を高止まりさせるとみる

米金利は4.00% – 4.40%程度がファンダメンタルズに基づく理論値である。足元の米金利は、理論値の上限近辺。中東情勢の悪化に伴うエネルギー価格の高騰がインフレ率を高めるとの懸念があることに加え、FRBの利下げペースが後ずれするとの見方が支配的となっている点が金利上昇を誘発している。ウクライナ戦争当時程、労働市場はひっ迫しておらず、高インフレが粘着する公算は小さいが、短期的には、上振れリスクへの懸念が支配的となり金利は高止まりしよう。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

◎注意事項

当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

◎注意事項をよくお読み下さい

りそな マーケットフラッシュマンスリー (2026年4月号)

りそなホールディングス 市場企画部
りそな銀行 国際事業部

◆ 今月の相場見通し④ 新興国通貨 (アジア)

		4月の予想		見通し
中国	人民元/円	22.00	~ 23.00	米中両国の膠着が続きドル/人民元は概ね横ばいを予想 3月のドル/人民元は中国当局が基準値設定で急激な元安を抑制しつつも、じわりと元安方向で推移した。一方、対円では中東情勢の悪化を背景とした原油高や円安進行を受け底堅く推移した。4月は米中ともに政策スタンスに大きな変化がないと見込まれる中、当局は為替安定を重視しつつも、内外金利差を背景に緩やかな元安基調は継続しよう。対円でも高値圏では日本の為替介入への警戒感が意識されやすく、上値は抑制されると予想。
	ドル/人民元	6.85	~ 7.00	
タイ	バーツ/円	4.75	~ 4.95	原油高と資本流出圧力が重石となり、バーツは軟調推移を予想 3月のバーツ相場は対ドル、対円で大きく下落。中東情勢の緊迫化を背景とした原油価格上昇により、エネルギー輸入国であるタイの交易条件が悪化したこと、2月に利下げを実施したタイ中銀の緩和スタンスが背景となった。加えて、グローバルなリスク回避の動きから資本流出圧力も強まり、下押し圧力が強まった。4月のバーツ相場は対ドル、対円ともに軟調推移を予想する。原油高に加え資本フローの弱さが続く中、上値の重い展開が見込まれる。
	ドル/バーツ	32.0	~ 34.0	
インド	100ルピア/円	0.90	~ 0.96	当局はルピア安定を重視し、4月も利下げ見送り、ルピア相場は対ドル・対円で堅調推移を予想 3月のルピアは対ドルで軟調に推移した一方、対円では円安を背景に堅調に推移した。3月の金融政策会合でインドネシア中銀は政策金利を据え置き、高金利維持による資本流出抑制と為替安定重視の姿勢を示したことがルピアの下支えとなった。4月のルピア相場は対ドルで底堅く、対円では堅調推移を予想する。もっとも、リスク回避の動きから新興国への資金流入は鈍化しており、上値は抑制されやすい展開となろう。
	ドル/ルピア	16,600	~ 17,200	

—ドル・人民元 (左軸) —人民元・円 (右軸)



—ドル・バーツ (左軸) —バーツ・円 (右軸)



—ドル・ルピア (左軸) —ルピア・円 (右軸)



出所：Bloomberg

◎注意事項
 当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

りそな マーケットフラッシュマンスリー (2026年4月号)

りそなホールディングス 市場企画部
りそな銀行 国際事業部

◆ 年間為替見通し

		2026年						2027年			ポイント			
		4~6月		7~9月		10~12月		1~3月						
ドル円	レンジ	145	~	165	140	~	165	140	~	165	140	~	165	中長期的には構造的に円安が進行しやすい状況が継続する。FRBの新人事を巡り利下げ織り込みが大幅に進むことがあればドル安となりやすい場面も。
	期末値	155		155		155		155						
ユーロドル	レンジ	1.10	~	1.22	1.12	~	1.24	1.12	~	1.24	1.12	~	1.24	ドイツをはじめとするユーロ圏各国の財政拡張方針や米国からの資産逃避を受けて25年春より急速にユーロ高となった。足元では中東情勢悪化を受けたドル買い戻しからユーロはやや軟調に推移しているが、ECBの利上げ観測などもあり底堅い推移を見込む。
	期末値	1.16		1.18		1.18		1.19						
ユーロ円	レンジ	170	~	190	175	~	195	175	~	195	175	~	195	財政懸念がくすぶる中、引き続き増税等の議論が浮上しやすく、対円・対ドルで上値の重い展開を想定。中東情勢の悪化を巡り、質への逃避から対ドルで軟調、対円で底堅く推移しているが、一方向の動きは徐々に一服するであろう。
	期末値	180		183		183		185						
ポンドドル	レンジ	1.30	~	1.38	1.30	~	1.36	1.29	~	1.35	1.29	~	1.35	財政懸念がくすぶる中、引き続き増税等の議論が浮上しやすく、対円・対ドルで上値の重い展開を想定。中東情勢の悪化を巡り、質への逃避から対ドルで軟調、対円で底堅く推移しているが、一方向の動きは徐々に一服するであろう。
	期末値	1.33		1.33		1.32		1.32						
ポンド円	レンジ	202	~	214	202	~	209	200	~	208	200	~	208	当局によるレンジ内で安定を図る運営が続くとみる。昨年末から年初にかけては元高を一定程度容認したように見えたが、当局が重視しているのは相場の安定。一方向の動きではない。輸出や景気への配慮も踏まえると、対ドルでは6.9前後を中心とした推移となる。
	期末値	206		206		205		205						
ドル人民元	レンジ	6.85	~	7.00	6.86	~	7.01	6.84	~	6.99	6.83	~	6.98	当局によるレンジ内で安定を図る運営が続くとみる。昨年末から年初にかけては元高を一定程度容認したように見えたが、当局が重視しているのは相場の安定。一方向の動きではない。輸出や景気への配慮も踏まえると、対ドルでは6.9前後を中心とした推移となる。
	期末値	6.92		6.93		6.91		6.90						
人民元円	レンジ	20.7	~	24.0	20.6	~	24.0	20.7	~	24.1	20.8	~	24.1	インフレに対する警戒感や労働市場の底堅さから豪中銀は利上げ継続。中東情勢の悪化を受けたドル買いの動きが徐々に一服するであろう。
	期末値	22.4		22.4		22.4		22.5						
豪ドル円	レンジ	105	~	112	105	~	112	103	~	110	103	~	110	インフレに対する警戒感や労働市場の底堅さから豪中銀は利上げ継続。中東情勢の悪化を受けたドル買いの動きが徐々に一服するであろう。
	期末値	108		108		106		106						
タイバーツ円	レンジ	4.60	~	5.00	4.60	~	5.00	4.60	~	5.00	4.50	~	4.90	景気の回復力が弱く、金融政策も景気下支えを意識した運営となっているため、対ドルでは上値の重い展開。成長率の鈍さや原油高が逆風となりやすい。
	期末値	4.80		4.80		4.80		4.70						

◎注意事項

当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

◎注意事項をよくお読み下さい

2026/3/31

りそな マーケットフラッシュマンスリー (2026年4月号)

りそなホールディングス 市場企画部
りそな銀行 国際事業部

◆ マーケットカレンダー

	日本	米国	その他		日本	米国	その他
4/1(水)	1-3月期日銀短観	3月ADP雇用統計	(中) 3月製造業PMI	4/16(木)		4月フィラデルフィア連銀製造業景気指数	(中) 1-3月期GDP
		3月ISM製造業景況指数					
4/2(木)	10年債入札	2月製造業受注		4/17(金)			
		2月貿易収支		4/20(月)	3月貿易統計		
4/3(金)		3月ISM非製造業景況指数		4/21(火)			(独) 4月ZEW景気指数
		3月雇用統計		4/22(水)		20年債入札	
4/6(月)				4/23(木)			(欧) 4月PMI (速報値)
4/7(火)	2月家計調査	3年債入札		4/24(金)	3月消費者物価指数		(独) 4月IFO企業景況感指数
	30年債入札			4/27(月)		2年債入札	
4/8(水)	2月毎月勤労統計 (速報)	10年債入札				5年債入札	
	3月景気ウォッチャー調査	FOMC議事要旨		4/28(火)	3月労働力調査	4月消費者信頼感指数	
4/9(木)	5年債入札	10-12月期GDP (確定値)			植田日銀総裁定例会見	7年債入札	
		2月個人所得・消費支出		4/29(水)	(昭和の日)	FOMC (結果発表)	
		30年債入札		4/30(木)	2年債入札	1-3月期GDP (速報値)	(欧) ECB定例理事会
4/10(金)	3月企業物価指数	3月CPI	(中) 3月CPI		3月鉱工業生産	3月個人所得・消費支出	(中) 4月PMI
4/13(月)		3月中古住宅販売	(他) IMF・世界銀行春季総会 (~18日)		3月住宅着工件数		(中) 4月製造業PMI
4/14(火)	20年債入札	3月PPI					
4/15(水)	2月機械受注	4月NY連銀製造業景気指数					
		米地区連銀経済報告					

◎注意事項

当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

りそな マーケットフラッシュマンスリー (2026年4月号)

りそなホールディングス 市場企画部
りそな銀行 国際事業部

中国の動向-主要トピックス

りそな銀行上海駐在員事務所

【3/6~12】

◎中国のビリオネアが世界最多、胡潤調査、首位に返り咲き

中国民間シンクタンクの胡潤研究院がまとめた 2026 年版の世界長者番付で、「ビリオネア」と呼ばれる資産 10億米ドル（約 1,570 億円）以上の超富裕層の数は、中国（香港を含む）が最多の 1,110 人となった。2 年ぶりに国別トップに返り咲いた。1 年間で米国の 2 倍以上のビリオネアが新たに生まれたことになり、昨年から続く株高や新興産業の成長などが中国での数を押し上げた。

【3/13~19】

◎ショッピングセンター店舗賃料の下落継続へ

消費の回復遅れと新規開業増加で中国のショッピングセンター（SC）の店舗賃料が今年も下落に向かいそうだ。消費の回復が遅れる中、ショッピングセンターを含む小売り不動産の今年の新規供給は近年の高い水準になると見られ、賃料の下落圧力が強まる流れにある。入居を考える事業者にとってはコスト低減の追い風になると考えられる。

主要経済指標

<月次データ>

項目	単位	2025/4	2025/5	2025/6	2025/7	2025/8	2025/9	2025/10	2025/11	2025/12	2026/1	2026/2
実質GDP成長率	%	-	-	5.2	-	-	4.8	-	-	4.5	-	-
消費者物価上昇率	%	-0.1	-0.1	0.1	0	-0.4	-0.3	0.2	0.7	0.8	0.2	1.3
都市部調査失業率	%	5.1	5.0	5.0	5.2	5.3	5.2	5.1	5.1	5.1	-	5.3
輸出額	10億ドル	315.1	315.6	324.7	321.2	321.3	328.2	304.9	330.0	357.4	356.6	299.8
輸入額	10億ドル	219.2	212.9	210.8	223.7	220.0	238.5	215.5	218.4	243.3	234.0	208.8
経常収支	100万ドル	-	-	288,731	-	-	491,201	-	-	735,001	-	-
外貨準備高	10億ドル	3,281.7	3,285.3	3,317.4	3,292.2	3,322.2	3,338.7	3,343.3	3,346.4	3,357.9	3,399.1	3,427.8
主要政策金利	%	4.35	4.35	4.35	4.35	4.35	4.35	4.35	4.35	4.35	4.35	4.35
対ドル為替レート	人民元	7.30	7.21	7.18	7.17	7.17	7.13	7.12	7.11	7.04	6.97	6.91

※ 対ドル為替レート：期末又は月末値 主要政策金利：1年物貸出基準金利

出所：Bloomberg

りそな マーケットフラッシュマンスリー (2026年4月号)

りそなホールディングス 市場企画部
りそな銀行 国際事業部

“上海下午茶” (上海からティータイム)

りそな銀行上海駐在員事務所

○スマホ値上げラッシュへ

中国のスマートフォン市場は、3月以降価格が上昇しています。複数メーカーが端末の値上げに踏み切ると見られています。新製品は、最低1,000人民元（約2万2,000円）の値上げが見込まれ、小米、栄耀（Honor）、OPPO等の主要ブランドは既存モデルの価格も引き上げ予定です。内、一部ブランドは既に価格改定を通知しました。

報道によると、大規模な値上げは中国のスマホ市場初です。従来は、値上げが実施されても一時的な調整か、高価格帯モデルのみが対象となりました。2026年は、新モデル・既存モデル共に複数回の価格改定が想定されると指摘されています。

今回の値上げ要因は、半導体メモリー価格の高騰です。現在、メモリーは利幅が大きいAIサーバー向けの供給を優先し、結果としてスマホなど消費者向け電子機器への供給が細り、メモリーの価格高騰を招いています。中国をはじめ世界のメモリーメーカーが、供給増に向けて生産能力の拡充に動いているものの、実際に新しい生産設備が稼働するには1年半以上必要であり、当面は需給逼迫の状況が続く見込みです。

米調査会社のデータによると、2026年のスマホの世界出荷台数は前年比▲12.9%の11億台になると予測しました。中国市場は▲10.5%の見通しであり、従来予測の▲2.2%から減少幅が拡大するとみられています。



○ゲーム市場が好調

2025年の中国ゲーム市場規模は引き続き拡大し、国内売上高は前年比+7.68%の約7兆9,200億円となりました。ユーザー数は+1.35%の6.8億人となり、いずれも過去最高を更新しました。

上記の主な要因はモバイルゲームの浸透によるもので、2025年の同売上高は+7.9%の5兆8,045億円となり、過去最高額を更新しました。内、チャットアプリ「ウィーチャット」のミニプログラムで遊べるゲームは前年比+34.4%と、急成長しています。新しくアプリをダウンロードせずに遊べる手軽さが人気を集めています。

特に、中国自主開発ゲームは堅調に推移しており、国内販売収入は約6兆4,040億円、前年比+11.64%を記録しました。海外市場でも成長は続いており、海外向け販売収入は+10.23%の約3兆1,877億円となり、2年連続で過去最高額を更新しました。海外市場の地域別構成を見ると、アメリカ、日本、韓国が主要市場となっており、それぞれ32.3%、16.4%、9.2%を占め、合計で57.9%に達しました。

米調査会社のデータによると、2025年の世界モバイルゲームの売上高ランキングでは、上位100社のうち33社が中国企業で、売上高ベースでも中国企業が約35%を占めました。中国ゲーム企業の海外での存在感が強まっています。



◎注意事項

当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客さまご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

2026/3/31

◎注意事項をよくお読み下さい

りそな マーケットフラッシュマンスリー (2026年4月号)

りそなホールディングス 市場企画部
りそな銀行 国際事業部

タイの景気動向

りそな銀行バンコック駐在員事務所

◆2026年1月のタイ経済、前月比で拡大

- ・タイ中央銀行は2026年1月の経済報告書で、タイ経済は前月比拡大したと発表した。
- ・**製造業**：電子分野の好調な輸出や、EV優遇策を活用するメーカーが国産義務の達成を目指して生産を引き上げたこと等により、前年比で+1.5%の拡大を記録した。
- ・**民間消費**：政府の経済刺激策の終了に伴い、非耐久財や半耐久財の支出が減少したため、消費の伸びは前月から鈍化した一方、耐久財は引き続き拡大した。特に乗用車の販売は成長をけん引しており、その一因として、昨年末に終了したEV3.0措置を受けて駆け込み購入されたEVの納車分が含まれている。サービス分野では観光部門が改善し、外国人観光客数と観光収入が増加した。
- ・**民間投資**：設備投資では資本財の輸入が増加し、建設分野ではホテルや商業施設など住宅以外の建築工事が増加したことから、前月比でやや拡大した。

◆2026年1月の輸出額、前年同月比24.4%増加

- ・タイ商務省によると、2026年1月の輸出額は前年同月比+24.4%の約4兆8,780億円相当に達した。AI技術の活用や世界的なデジタルインフラ整備の進展に伴い、電子製品の需要が引き続き拡大して

いることが背景にある。品目別では、主要工業製品が+29.8%と大きく伸びた一方で、農産物・加工品は▲1.8%だった。

- ・増加したのは、コンピューター・同部品 (+68.2%)、電話機・通信機器 (+195.3%)、半導体/トランジスタ/ダイオード (+45.7%) 等。減少したのは、ゴム製品 (▲5.6%)、水産缶詰/同加工品 (▲9.4%) 等。主要向け市場では、米国 (+43.1%)、中国 (+35.1%)、日本 (+2.7%)、アセアン (+29.8%) といずれも拡大した。一方、カンボジア向けは▲73.6%と落ち込んだ。

◆2026年2月の新車登録、前月比で▲46.2%

- ・タイ運輸省陸運局の発表によれば、2026年2月の新車登録台数は前年同月比+0.1%の5万1,085台となった。一方、前月比では▲46.2%と大幅に減少している。EV普及を促進する政策「EV3.0」の登録期限が1月末で終了し、中国系EVの登録台数が反動減となったため。日系のシェアでは前年同月比横ばいとなり、全体の78%を占め、前年並みの水準に回復した。

主要経済指標

＜月次データ＞

項目	単位	2025/4	2025/5	2025/6	2025/7	2025/8	2025/9	2025/10	2025/11	2025/12	2026/1	2026/2
実質GDP成長率	%	-	-	2.8	-	-	1.2	-	-	2.5	-	-
消費者物価上昇率	%	-0.2	-0.6	-0.3	-0.7	-0.8	-0.7	-0.8	-0.5	-0.3	-0.7	-0.9
失業率	%	0.9	0.9	0.9	0.9	0.9	0.8	0.8	0.8	0.7	0.7	-
輸出額	100万ドル	25,653	31,045	28,641	28,581	27,743	30,971	28,836	27,446	28,928	31,573	-
輸入額	100万ドル	28,688	29,639	27,417	28,259	29,708	29,696	32,272	30,172	29,280	34,876	-
経常収支	100万ドル	-1,344	-321	3,212	1,157	-225	2,233	-1,593	-584	3,100	724	-
外貨準備高	10億ドル	256.8	257.6	262.4	261.9	267.4	273.3	272.0	274.7	281.9	289.6	293.9
主要政策金利	%	1.75	1.75	1.75	1.75	1.50	1.50	1.50	1.50	1.25	1.25	1.00
対ドル為替レート	パーツ	33.8	33.0	32.6	32.5	32.4	32.0	32.6	32.4	31.6	31.3	31.3

※ 対ドル為替レート：期末又は月末値 主要政策金利：タイ翌日物レポ金利

出所：Bloomberg

◎注意事項
当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

◎注意事項をよくお読み下さい

りそな マーケットフラッシュマンスリー (2026年4月号)

りそなホールディングス 市場企画部
りそな銀行 国際事業部

タイにおける自動車産業の動向

りそな銀行バンコック駐在員事務所

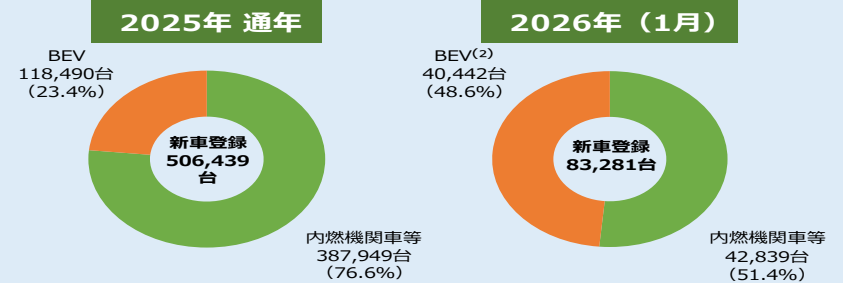
生産・国内販売・輸出の動向

		2023年	2024年	2025年	2026年 (1月)	前年同月比 (%)	1月	
【台数】								
四輪	生産台数	乗用車	648,803	558,440	550,456	41,535	116.3	41,535
		商用車	1,192,883	910,557	905,113	76,851	107.7	76,851
		合計	1,841,686	1,468,997	1,455,569	118,386	110.5	118,386
	国内販売 台数	乗用車	292,505	224,148	239,236	26,363	144.5	26,363
		商用車	483,275	348,527	381,930	47,573	159.4	47,573
合計		775,780	572,675	621,166	73,936	153.8	73,936	
輸出台数	1,117,539	1,019,213	935,750	58,405	93.7	58,405		
二輪	生産台数	2,120,738	1,887,208	1,972,902	166,394	93.6	166,394	
	国内販売台数	1,856,814	1,683,239	1,711,846	154,124	98.6	154,124	
	輸出台数	822,608	938,762	893,198	79,078	93.7	79,078	
【完成車輸出台数】(百万パーツ)								
四輪		719,992	699,163	621,662	39,093	94.3	39,093	
二輪		68,589	63,969	61,596	5,352	87.1	5,352	

出所：タイ工業連盟 (FTI)

電気自動車(1)の動向

乗用車新車登録台数に占めるEVの割合 バッテリー式電気自動車 (BEV)

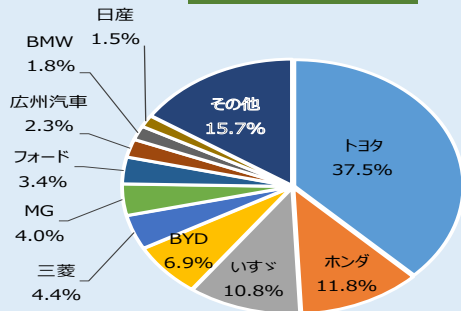


(1) 7人乗り以下の乗用車と定義
(2) EV振興策「EV3.0」終了直前の駆け込み需要

出所：タイ運輸省陸上運送局のデータに基づき作成

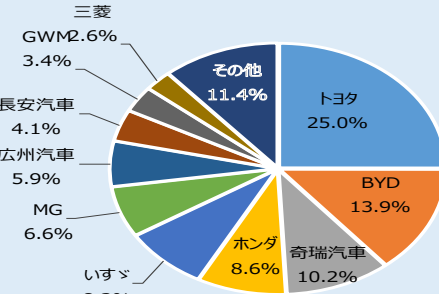
メーカー別自動車新規登録台数 (※)

2025年 通年



日系シェア 76.7%

2026年 (1月)



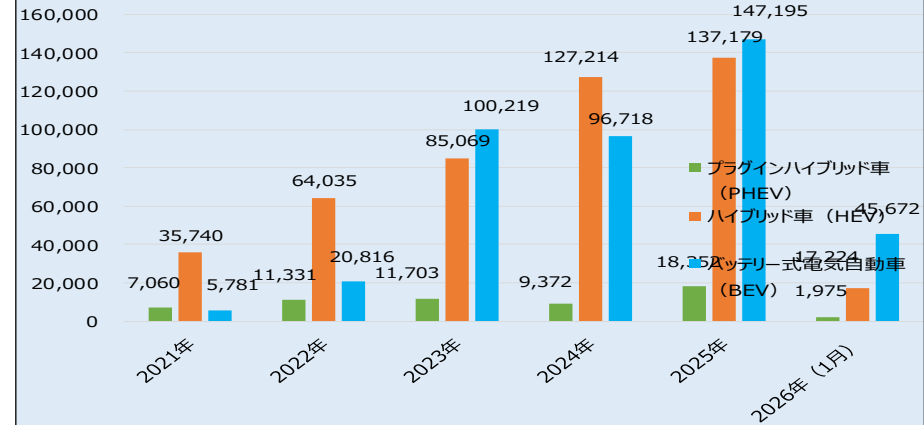
日系シェア 48.0%

※2026年より国内販売台数から新規登録台数に変更

出所：タイ運輸省陸上運送局のデータに基づき作成

EV新規登録の推移

(2輪車・3輪車を含むEV登録台数)



出所：タイEV協会、タイ運輸省陸上運送局

◎注意事項

当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。